平塚市教育委員会令和6年10月定例会会議録

開会の日時

令和6年10月30日（水）14時00分

会議の場所

平塚市役所本館6階619会議室

会議に出席した者

教育長 吉野 雅裕 委員 菅野 和恵 委員 大野 かおり
委員 増井 峰夫 委員 小林 誠

説明のため出席した者

◎教育総務部

教育総務部長	長谷川 孝	教育総務課長	野地 剛
教育総務課教育総務担当長	渋谷 悟朗	教育総務課企画担当長	松本 信哉
教育施設課長	金子 稔	学校給食課長	吉澤 達夫

◎学校教育部

学校教育部長	石井 鮮太	学務課長	高梨 里志
教職員課長	宮坂 正	教育指導課長	若杉 真由美
教育指導課学校安全担当課長	斗澤 正幸	教育研究所長	伊沢 秀樹
子ども教育相談センター所長	中山 文恵		

◎社会教育部

社会教育部長	石川 亜貴子	社会教育課長	石塚 誠一郎
中央公民館長	鳥居 昌	スポーツ課長	新倉 好人
中央図書館長	藤田 忠義	博物館館長	浜野 達也
美術館長	戸塚 清		

会議の概要

【開会宣言】

○吉野教育長

これから教育委員会令和6年10月定例会を開会する。

【前回会議録の承認】

○吉野教育長

始めに、令和6年9月定例会及び10月臨時会の会議録の承認をお願いする。

（訂正等の意見なし）

○吉野教育長

訂正等の意見がないので、令和6年9月定例会及び10月臨時会の会議録は承認されたものとする。

1 教育長報告

(1)有料イラストの無断使用に係る損害賠償について

【報告】

○吉野教育長

著作権侵害による損害の賠償について報告するものである。
詳細は、スポーツ課長から報告する。

○スポーツ課長

本事案は平成28年3月に開催したスポーツイベントの案内を作成した際に、インターネットで検索した有料イラストを有料との認識のないまま許諾なく使用したことにより、制作者の著作権を侵害したとして、その損害を賠償するものである。事案の経緯は資料に記載のとおりとなっており、このイラストを掲載した案内（公民館だより）を、データ情報として地域ホームページに長年に渡り掲載していたことが令和6年6月に発覚したものである。

事案に対する対応としては、当時作成した職員にヒアリングを行い、記載のとおり過失であることを確認した。しかし、相手方の著作権を侵害していることは事実であることから、本市において謝罪の上、損害賠償することとなった。

市側の顧問弁護士と相手方弁護士との交渉により、令和6年9月26日合意書の取り交わしを行い、損害賠償金44万円を10月31日に支払うこととなっている。

本事案は庁議、定例行政報告会及び報道発表を経て、既に公表されているものである。また、今回の損害賠償金支出は地方自治法第180条第1項の規定により専決処分として、令和6年12月平塚市議会定例会で報告することを予定している。

なお、インターネットから有料イラストを無断で使用してしまう恐れは、職員の誰もが一步間違えれば当事者になってしまうことから、再発防止策については、行政総務課の協力をいただき、庁内ポータル掲示による注意喚起を行い、更には著作権研修も予定されている。

【質疑】

○大野委員

スポーツ課長の報告にもあったが、このような事案はどこでも起こり得る話であると改めて心配になった。特に、小中学校では学校だよりや学年・学級通信など、パソコンを使って作成する際に、文書に合ったイラストがあった方がいいと考え、例えば「運動会 イラスト 無料」といった検索をして、検索結果の詳細の利用規約まではチェックせずに使

用してしまうという例も、少なからずあるのではないかと思う。

有料イラストに限らず、学校教育における著作物の取扱いについては、著作権の例外規定があり、教員が授業に使う場合には著作物をコピーして使用できる。しかし、これはあくまで授業のみの話であり、職員会議や保護者会では使用することはできないが、こういったことをきちんと理解していないと、知らないうちに著作権を侵害してしまうことが起きるのではないかと危惧している。

今回、再発防止策として、庁内では注意喚起や著作権研修が実施されるということだが、学校現場でも改めて教職員が著作権について学べる機会があるといいと思う。

例えば、文化庁のホームページを見ると、文化庁が作成しているテキストがたくさんある。また、動画もあり、動画には大人向けの動画と小学生向けの動画があった。小学生向けのものは1つが短いが、見てみると大人でも参考になるし、子どもから著作権について尋ねられた際の説明にも活用できると思った。

例えば、各学校で行われている学校事故防止会議などで、著作権について取り上げてもよいのではないか。また、子どもの発達の段階に応じて、教科の学習や学校生活の具体的な場面で、きちんと著作権について教えていくことも、学校教育の大切な役割だと思う。

今回のことをきっかけに、大人も子どもも著作権について学んだり、学び直したりできればよいと思う。

○教育総務課長

10月25日付で各学校長宛に注意喚起の通知を行っている。

委員の話のとおり、文化庁が「学校における教育活動と著作権」というリーフレットを出しており、こちらも併せて案内し、学校事故防止会議等での活用をお願いしている。

○教育研究所長

教育研究所では、11月に情報教育の担当者に対し、研修会の実施を予定している。

研修会では、先ほど話があった教育総務課の通知と文化庁のリーフレットを紹介し、事案の内容やイラストの取扱いなど、時間が許す限り話をした上で、参加者には校内での周知も行っていただくようお願いする予定である。

(2)令和6年度夏期特別展「標本で！植物観察」開催報告

【報告】

○吉野教育長

7月20日から9月4日まで開催された特別展の結果を報告するものである。

詳細は、博物館長から報告する。

○博物館長

本特別展は、令和6年7月20日から9月4日まで、40日間の会期で開催した。

主旨として、博物館には6万点もの植物標本が保管されているが、虫害や物理的な破損を受けやすいため、常設展示では紹介していない。そこで、特別展では、標本の存在意義を理解してもらうことを目的に、市内で見られる253種類の植物標本を紹介した。

会期中の入館者数は9,560人、一日平均は239人で、5年度夏期特別展の入館者数には及ばなかった。

関連行事として、神奈川県植物誌調査会の会長による講演会「神奈川の植物を調べる」のほか、展示解説を子ども向けと一般向けの合計4回実施した。

印刷物では、図録の有償頒布数は48冊であった。また、幼児から小学生の関心を引き出すため、4種類のワークシートを作成し、会場で1,572枚を配布した。

次にアンケート結果だが、回答者の年齢は10代と40代が多く、夏休みということもあり親子の来館が多かったと思われる。自由記述からは、「集めた資料を大切に保管する博物館の仕事を伝えるいい機会になった」や「かつてはふつうに見られたのに、今は無くなってしまった植物を標本で見られることはたいへん重要である」など、植物標本の意義を理解していただいた一方で、「標本と一緒に植物の写真を並べてもらってもっと身近にわかりやすくなったのでは」など、標本に特化して写真パネルを用いなかった展示手法について賛否をいただいた。

【質疑】

○増井委員

今回の特別展だが、地元の博物館の仕事として大切なことだと感心した。

以前家の庭で普通に見ていたはずの植物が、展示では姿を消してしまった植物として紹介されており、帰ってから家の庭を確認したら本当になくなっていて変化に驚いた。

こういったことを積み重ねていくことが平塚の記録になると思うので今後も続けてほしい。

○大野委員

8月下旬に特別展を見たが、展示室の通路の両側に植物の標本が展示されており、さながら植物の小道のようで、展示方法も素敵だと思った。

その中で、自分自身が子どもの頃によく見た草花を見つけると、当時を思い出し、懐かしくなり嬉しくなった。

標本の隅に採取した年月日が記載されていたが、長い年月保管されているものも、最近採取された植物とあまり変わらない状態であり、保管状態のよさに驚いた。また、6万点もの植物標本が保管されていることは後から知ったが、改めて博物館の偉大さを感じた。

私が行った日は、小学生くらいの兄弟を連れた家族が見に来ていたが、親子で楽しそうにクイズやワークシートに取り組んでおり、その姿がほほえましかった。よい企画であったと思う。

○博物館長

いただいた言葉は担当者に伝えたいと思う。

担当者としては、博物館が持つ実物資料の大切さを少しでもわかっていただきたいたいとい

う思いがあり、これはある程度達成できたと感じている。

ワークシートについては、資料の展示のみとなる中で、小さいお子さんにも興味をもっていただきたく工夫したものであるが、これもある程度うまくいったと感じている。

○菅野委員

ワークシートを設けたことは、参加型のイベントになったという点でおもしろいと思った。

先ほど、賛否の意見との説明があったが、感想やコメントから得られたものを X でリアルタイムにアップするなど、双方向性のやり取りができるといいのではないか。「こういった意見がありましたが、私たちはこのように意図しています。」とか、「このように修正しました」など、そういった発信ができることより魅力が上がると思った。

なお、来場者の割にアンケートが少ないように感じた。もし用紙に記入する方法でのみアンケートを実施しているのであれば、他の手段も検討してもよいと思う。

○博物館長

来館者からいただいた意見への反応方法については、現状あまり力を入れることができていないので、今後検討していきたい。

アンケートが少ないという意見だが、これは特別展のテーマによってかなり増減があるものだが、今回は来館者の割に少なかった。

オンラインの活用により自宅等でアンケートの回答を行える仕組みについては、既にプラネタリウムの観覧では採用しているが、アンケートはその場で書く人の方が多いという結果もあることから、これも踏まえて今後検討していきたい。

(3)その他

なし

2 議案第21号 令和7年4月期人事異動方針について

【提案説明】

○吉野教育長

令和7年4月期の校務作業員及び給食調理員の人事異動について、基本方針を定めるものである。

詳細は、教育総務課長から説明する。

○教育総務課長

この人事異動方針だが、各学校に勤務する市費の職員、ここでは「校務作業員」と「給食調理員」として勤務する正規職員の人事異動を対象にしたものになる。

「2 異動対象者」として職員の異動対象となる条件を掲げている。

まず「(1) 校務作業員」については、原則として「同一職場 勤続5年以上の者」を異動対象とする。ただし、全体の人事配置を考慮していく中で必要が生じたときは、3年以上5年未満の者も異動対象とすることができる旨定めている。

次に「(2) 給食調理員」だが、原則として「同一職場 勤続3年以上の者」を異動対象とする。こちらも例外として、全体の人事配置を考慮していく中で必要が生じたときは、3年未満の者も異動対象とすることができる旨定めている。

なお、「3 人事異動の方針」として、人事異動に係る考慮すべき点等を掲げている。

今後の手続だが、この人事異動方針を各校長に示し、各校長から人事異動に係る調書を作成いただく。人事当局としては、この調書を参考に人事異動について検討を行うことになる。

【質疑】

なし

【結果】

全員異議なく原案どおり可決された。

3 議案第22号 令和7年度平塚市公立学校教職員の人事異動方針について

【提案説明】

○吉野教育長

令和7年4月期の市内小中学校教職員の人事異動に関して、基本方針を定めるものである。

詳細は、教職員課長から説明する。

○教職員課長

10月下旬となり、教職員配置の動きも始まってきたところである。

基本方針における3点の基本事項として、「適材を適所に配置する」、「全市的視野に立って教職員の編成を刷新強化する」、「他市町との交流は本人を生かす立場に立って行う」を大きな柱として進めていきたいと思っている。また、実施要領の7つの項目については、神奈川県教育委員会が定めている「県費負担教職員等人事異動要綱」の内容に沿ったものとなっている。

なお、昨年度と内容の変更はない。

今後、この方針の内容に沿って、11月からの全校ヒアリング等を通して、適正な配置に向けて進めていきたいと考えている。

【質疑】

なし

【結果】

全員異議なく原案どおり可決された。

4 その他

○増井委員

先日、美術館の「ザ・キャビンカンパニー大絵本美術展」を見に行ったときに、家族での来館者が多く驚いた。どのような広報活動をするか家族全体を巻き込めるのか見解があれば教えてほしい。

○美術館長

当該展示については、令和6年7月6日から9月1日の夏休みの期間で実施し、14,000人程度の来館があった。

広報の取組としては、美術館を含め公共施設にポスターやチラシを掲示したほか、神奈川中央交通にも協力をいただいた。また、Xでの発信や、各小中学校にはポスターの配布に加え全児童生徒にチラシを配布した。

【閉会宣言】

○吉野教育長

以上で全ての案件の審議が終了したので、教育委員会10月定例会は閉会する。

(14時25分閉会)